

国内出向職員

課長補佐



租税条約交渉の
最前線で

外務省 国際法局
経済条約課 課長補佐

大西 篤史

平成23年入庁

〇月×日23時、 某国某ホテルの一室にて

明日は交渉の最終日。いくつも山を越えてきたが、まだ論点はしっかり残っている。局面打開のため新提案を起案したいが、ネット環境は悪いし、手持ちのデータも限られている。交渉チームメンバーの知識・経験が最後の頼み。手ぶらじゃ日本に帰れない。まだやれることはあるはずだ。

租税条約の 締結担当官として

現在、外務省に出向し、租税関係条約の交渉や国会対応を担当しています。租税法及び国際法の知見を日々磨きつつ、外務省内の国担当や財務省・国税庁と一緒に悩みながら、一歩ずつ進めています。海外当局との交渉では、我が国及び相手国の「立ち位置」の違いに由来する利害の衝突の中で、一つの結論を導くべく議論を重ねていきます。ときに消耗は激しくなりますが、相手国の歴史や文化の理解の上に合意を得ることができたときに、他では得られない充実感があります。

30年後の世界、30年後の自分

今後、我が国の国内市場が縮小していくことが予想され、また我が国は貿易立国から投資立国への構造転換が生じるといわれています。そんな中で、ビジネスは極東・日本から世界に出て行く、その際に自分の仕事はどう貢献できるのか、30年後に世界はどうなっているか、そのとき自分にできること・したいことは何か。足下で必死に足掻きながら長い時間軸で物事を想像できるのが、この仕事の楽しみの一つではないかと思います。



留学・海外出向



アメリカの地で

南カリフォルニア大学
法科大学院

後藤 大輔

平成30年入庁

カリフォルニアでの学び

2022年の夏から1年間、南カリフォルニア大学のロースクールに留学しています。ロースクールでは、税法を始めとする米国の法制度をその成り立ちからじっくりと学べることはもちろん、学術的な論文作成に関する指導やプレゼンテーションの指導といった、英語のアウトプットに必要な能力も

培うことができます。日々の課題に四苦八苦しながらも、成長を実感できる充実した毎日を過ごすことができます。

米国という地で日々勉強する中で、最も刺激を受けているのは他国から留学に来ていた学生たちの学びに対する熱量です。私

が「そういうものなのか…」と流してしまうような教授の発言に対しても多くの質問が飛び交い、活発な議論が繰り広げられます。1人の学生として、貪欲に講義から知識を吸収しようとする姿は見習わなければならない、背筋が伸びる思いです。語学力や法律に対する知識の醸成はもちろんですが、この学びの姿勢は、日本に戻っても忘れずになりたいと思います。

国税庁への入庁を志したとき、英語が得意ではなかった私にとって留学はどこか他人事でした。国税庁や財務省主税局での業務を経て興味を持ったものの、実際に行くまでは不安なことや大変なことも数多くありました。ただ、米国で学んでいる今、この経験は自分にとってかけがえのない貴重なものだと感じています。国税庁にこういった学びの広がりがあることに、少しでも関心を持っていただけたら幸いです。

税に関する 紛争解決に向けた 各国税務当局の協力

現在私はOECD(経済開発協力機構)に勤務し、各国の相互協議の実施状況にかかるピアレビュー(相互審査)を担当しています。経済活動が国境を超え多国間にまたがり行われる現代において、世界の国々は二重課税の防止のため他国と租税条約を締結していますが、この条約に適合しない課税が行われたと納税者が考える場合、納税者は相互協議を申し立て、二重課税の解消を求めることができます。相互協議が迅速かつ実効性(effective and timely resolution)をもって行われなければ、二重課税状態が継続し、納税者が不利益を被りますから、ピアレビューを通じて各国の取り組み状況を明らかにし、相互協議の促進に努めています。ピアレビューは、各国の協力によって進められていくものですので、その審査の基準から参加国で話し合い、同意を得て作り上げていくこととなります。



海外へも広がる
活躍の場

経済協力開発機構(OECD)

沖本 亜弥

平成18年入庁

国境を越えた議論

私の所属しているチームではこのルール作りの原案作成や、ピアレビューの成果物であるレポートの原案を作成しています。これらはMAP Forum(各国相互協議担当者の議論の場)において議論され、各国の意見等を踏まえ修正されたうえで完成しま

す。各国の置かれた状況はさまざまですが、相互協議の促進という一つの目標に向かって活発な意見交換が行われています。相手の考えを理解し、自分の意見を伝える力は世界のどこで働いていても大切だと日々実感しています。